ISIRTラウンドテーブル

ISIRT(International Scientific Initiative on Road Transport) ラウンドテーブルは、将来に向けて、道路交通における国際的・科学的構想を提言するために企画された国際会議である。今回の活動の目的は、日本－米国－欧州の道路交通にかかわる分野で活躍する専門家を対象に、国境を越え、学問領域を越えて、より広く高い視点からの議論を経たうえで、共通のアプローチを確立することである。

設立当初より、モビリティのよりよいあり方を求めて活動を展開してきた㈶国際交通安全学会では、1988年より、ISIRTラウンドテーブル活動のための構想が始まり、欧州の専門家との協議に基づいて設置が提唱された。

交通にかかわる問題は、私達の生活に密接に関連し、すでにグローバルな問題として全世界に及んでいる。一国の一研究者によって個別に取り組まれるべき問題ではなく、また、その分野も工学、心理学、社会学、法学等多岐にわたっている。

こうした状況を背景に、道路交通にかかわるさまざまな課題を深く分析し、更に論理的かつ具体的な結論を導きだし、その成果を各国の政策決定者に広く訴えることがこのラウンドテーブルの現時点での最終目標である。

1989年から1991年にかけて3回にわたって開催されたラウンドテーブルには、日本、イギリス、ドイツ、フランス、オランダ、スイス、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、ベルギー、アメリカ、カナダ、インドの13ヵ国から計110名の交通にかかわる科学者および専門家が参加した。参加メンバーについては、特に学際性および国際性を重視し、各国の固有な状況をも考慮した。

第1回ラウンドテーブルは、1989年末にオランダで開催され、「安全」と題して、道路の安全とその改善のために必要な総合的な科学的アプローチのあり方について議論が行われた。

1)事故分析
2)速度
3)行動変容

の3つのサブテーマが設定され、それぞれ事故データの高度化、速度のあり方、特に快適速度、実勢速度、安全速度、経済速度について、更に、人間の能力を考慮した技術的方法による行動変容の効果につ

出席者一覧

BELGIUM	A. Megank
CANADA	M.E.H. Lee-Gosselin
	J.A. Newman
	L.E. Tupper
DENMARK	J. Christensen
FINLAND	H. Summala
FRANCE	P.E. Barjonet
	T.E.A. Benjamin
	D. Bollo
	N. Comier
	M. Dejeammes
	G. Dobias
	F. Farre
	D. Fleury
	H. Fontaine
	B. Gérardin
	J. Lambert
	C. Lamure
	S. Lassarre
	F. Maréchal
	J.P. Orfeuil
	P.Y. Texier
	A.de Waele
GERMANY	H. Baum
	J. Behrendt
	B. Biehl
	H.H. Braess
	R. Ernst
	H. Heinrich
	G. Heuser
	J.H. Klockner
	H. Koch
	G. Kroj
	K.H. Lenz
	S. Neumann
	D. Otte
	G. Sabow
	H. Strobel
	M. Thiem
	G. Weich
GREAT BRITAIN	R.E. Allsop
	J. Breen
	I.D. Brown
	J.P. Bull
	P.B. Goodwin
	P.J. Hills
	P.M. Jones
	G.M. Mackay
	A. Nichols
	B.E. Sabey
INDIA	D. Mohan

いて有意義な議論が展開された。また、今回の議論を通じて、欧州と日本の研究者の抱える問題にかなりの違いがあることが明らかとなった点も成果のひとつといえる。

第2回は、1991年春にスウェーデンで開催され、「道路交通と環境」をテーマに、道路交通が環境に及ぼす影響について、また、そうした中でいま取り組むべき方向について検討した。道路交通は、先進国と発展途上国とではその状況は著しく異なり、抱えている問題も違うため、グローバルな視点で考慮することが必要である。ここでは次の3つの側面が強調された。

1)車のマテリアル、エネルギー、資本等の資源管理
2)公共交通のためのインフラの建設・再建や遠距離通信の新利用法等の需要管理
3)トラック以外の輸送法、フレックス制の導入、アクセスの制限、道路交通情報の提供促進等の輸送管理

また、環境問題の解決には、個々人の理解と協力が不可欠であり、そのための広報・啓蒙活動の重要性が指摘された。

第3回ラウンドテーブルは、1991年秋にフランスで開催され、「モビリティ」がテーマとして取り上げられた。モビリティ、安全、環境の調和という観点から将来あるべきモビリティの姿について活発な議論が繰り広げられた。旅客輸送と貨物輸送について、高齢者および身体障害者の交通参加について、更にモビリティにおける新情報システムが果たす役割について検討され、最後にモビリティ、安全、環境の調和についてまとめられた。

以上、3回のラウンドテーブルの概略について説明したが、各回にて発表された研究論文については、国際交通安全学会の英文論文集 IATSS Research (Vol.14－1, Vol.15－2, Vol.16－2) に掲載されている。

また、今回のラウンドテーブルにて確認され、採択された事項に関しては、政策決定者へ向けて最終報告書としてまとめられ、本誌次頁以降に日本語訳を掲載した。

JAPAN
K. Fukuchi
T. Kakinuma
A. Kimura
M. Koshi
Y. Kuwabara
S. Morichi
Y. Nagayama
K. Naito
M. Nakagawa
A. Nakamura
K. Noguchi
H. Shimizu
H. Shimizu
T. Suzuki
S. Wakamatsu
S. Yamazaki

NETHERLANDS
B. Beukers
R.A. de Bruin
J. van Dorssen
J. Godthelp
A.R. Hale
A.I.J.M. van der Hoorn
J.J. Klijnhout
M.J. Koornstra
J.L. de Kroes
F. Langeweg
J.A. Michon
H.H. van der Molen
S. Oppe
L. Reijnders
J.A. Rothengatter
C. Vlek
P. van Vollenhoven
D. de Waard

SWEDEN
O. Backlund
C. Hydén
B. Jansson
R. Johanssen
J. Karlsson
T. Månsson
C. Melker
H. Mohlin
S. Nordqvist
H. Perby
K. Rumar
I. Skogö
A. Stahl
E. Tengström
B. Thunberg
S. Wandel
B.L.B. Wiman

SWITZERLAND
R.D. Huguenin
F. Walz

USA
J.D. Boyd
B.J. Campbell
F.P. Davidson
L. Evans
F.A. Haight
E. Petrucelli